

火のくつと風のサンダル



ウルトラウエハレ作
関橋生/訳 久米宏一/絵
童話館出版

[3-0197050257] **ウ**
学校じゅうで「ばんのは、夏休みに、くつ屋のお父さんと一緒に旅に出ました。大好きなお父さんと、ほんものいなかを歩いて、チムは牛にひきまわされたり、橋から落ちたりもしますが、すてきな旅になりました。

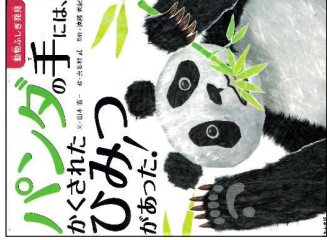
しろくまだって



斉藤洋/作 高嶋純/絵
小峰書店
[3-0500229007] **さ**

マルクとカールはしろくまの兄弟。でも、人間のことばを話せるし、字だってよめるとき。あるとき、町へ来たふりは、人間のふりをして、宅配便の仕事をするようになりました。はたして、うまくできるのでしょうか。つづきが2さつあります。

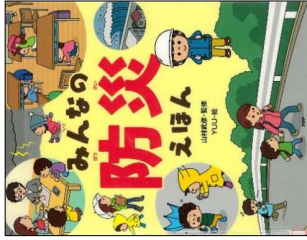
パンダの手には、かくされたひみつがあった!



山本省三/文 喜多村武/絵
遠藤秀紀/監修 くもん出版
[3-0207096092] **48.9**

サル以外の動物は物をにぎれない。けれど、パンダは竹をにぎって食べている。それは五本の指のほかに、もう一本「せの親指」があるから。しかしそれだけではありません。七十年間だけもぎつかなかったひみつを日本の学者が発見したのだ。

みんなの防災えほん

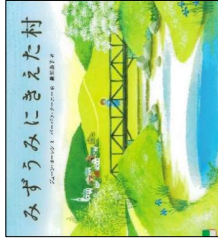


山村武彦/監修
YUU/絵 PHP研究所
[3-0500511303] **36.9**

地震、かみなり、火事、台風。災害はとつぜんやってくる。この本では、いざという時にどうすればいいのか、どうするといいかわからないイラストで分かりやすく書かれています。自分はどうすればいいのか、読んで考えておこう!

みずうみにきえた村

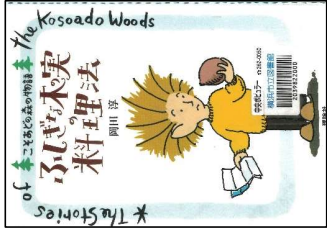
ジェーン・ヨレン/文 パーバ・クローニー/絵 掛川恭子/訳
ほるぷ出版 [3-0500754895] えほん **クミドリ**



わたしたちがかくがくしていた美しい村では、夏には川でマスをつり、春にはカエドの樹液をなめました。けれど、大都会の貯水池を作るため、村は水底にすめられることになりました。水に流んだ年月のむこうへ、わたしたちを連れていってくれます。

ふしぎな木の木の料理法

りょうりほう
こそあどの森の物語
岡田淳/作 理論社
[3-0194081676] **お**



こそあどの森にすむスキップのいのふしぎな木の葉が書きました。料理法が書いてあった手紙はぬれていて読めません。だれかわかる人はいるのでしょうか? 「こそあどの森の物語」は、ほかに12さつあります。

よんでみよう

こんな本

3・4年生

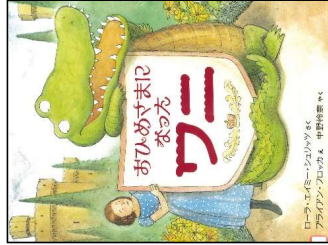
横浜市立図書館

電話 045-262-0050

□は ラベルのきこう (ほんの ある ばしょ)
[]は ほんを よやくするとき
「よやくもつしこみよ」に かく ばんごうです



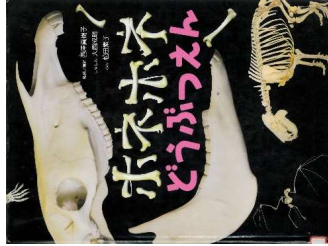
おひめさまになったワニ



ローラ・エイミー・ジュリッツ/さく
ブライアン・フロッカ/え
中野怜奈/やく 福音館書店
[3-0500761110] **シ**

コーワひめは、りっぱな女王になるためのべんきょうで、あそびぶいがあるひめせん。うんざりしたひめが、妖精に手紙をかくと、なんとワニがやってきて、ワニはドレスをきて、ひめになりきります。いちにち、ひめのかわりをするのです。

おひめさまになったワニ



澤澤真樹子/監修・解説
大西成明/しゃしん
松田素子/ぶん アリス館
[3-0209057000] **48**

キリンの首とヒトの首、長さはぜんぜんちがうのに、ホネの数は7つで同じ。それは、キリンもヒトも「哺乳類」という動物のなかまだから。いろいろな動物のガイコツが、動物のからだをくらしのひみつを、そっと教えてくれるよ。

かき氷 天然氷をつくる



細島雅代/写真
伊地知英信/文 岩崎書店
[3-0500270043] **58**

昔は、冬に池で氷を作っていました。冷蔵庫で氷が簡単に作れる今、池で氷を作る氷屋は、少ししかありません。自然の力をかりて作る氷屋、阿佐良さん一家の物語です。特別な氷からできた、かき氷、おいしい!

神様のパッチワーク



山本悦子/作
佐藤真紀子/絵 ポプラ社
[3-0500811597] **や**

小学4年生の結はみかん農家の父、母、姉の香とともに暮らしている。結も姉も特別養子縁組で家族になった。今までは気にしていなかったが、二分の一成人式の準備中に校長から言われたひと言で、自分はいそいそなのかと不安になる。

富士山にのぼる

石川直樹/著 松田素子/構成・編集
アリス館 [3-0500786948] 29.1



富士山は日本が一番高い山。「とおくから見るだけじゃ、つまらない。」そう思ったばかりは、冬のある日富士山にのぼることにした。たった一人、一歩ずつ、誰の足あともない雪原を進む。今夜は富士山の上でねむり、明日は頂上へ出発だ。

ぼくの犬スーザン

ニコラ・デイビス/文
千葉茂樹/訳 垂石真子/絵
あすなろ書房 [3-0500822165] 7



ジェイクはクリスマスが大好き。ふだんどおりの生活じゃなくなって、不安だから。ある日ジェイクは、スノーマンの空気人形にかみつけた犬、スーザンと出会う。この犬といっしょなら、なにがおこってもへっちゃらなんだ。

やかまし村の子どもたち

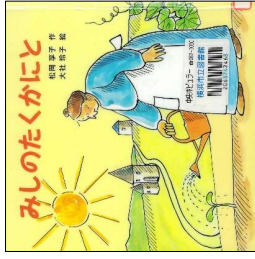
アストリッド・リンドグレン/作
イングリッド・ヴァン・ネイマン/絵
石井登志子/訳 岩波書店
[3-0500699318] 11



あたしはリーサ。もうすぐ8さいになる女の子。やかまし村には子どもは6人だけ。でも、みんなで畑の上を歩いたり、羊し草小屋にとまったり、たのしいことがいっぱい。長く読みつかれてきた物語の、絵と文章が新しくなりました。

みしのたかくかにと

松岡享子/作 大社玲子/絵 こだま社
[3-01198068108] 3



毎日べんきょうばかりして、すっかりくたくたになってしまった王子さま。「いなりもおかあ、いなりもかかい、みしのたかくかにと」を食べるまではもうべんきょうしないといひはります。王子さまの食べたいものってなんでしょう。

プラスチック星にはなりたくない!

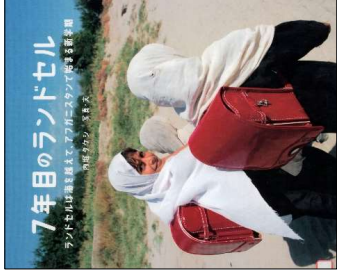
ニール・レイトマン/作・絵 いわじょうよしひと/訳
地球のためにできること
高田秀重/日本語監修 ひさかたチャイルド
[3-0500784375] えほん 5/あおい



きみの身のまわりにはたくさんあるプラスチック製品。便利で長持ちするけれど、環境によくない一面もある。生分解されないのいつまでも土にかえらず、海を汚してしまうんだ。どうすれば地球環境を守れるか、きみにもできることを考えてみよう。

7年目のランドセル

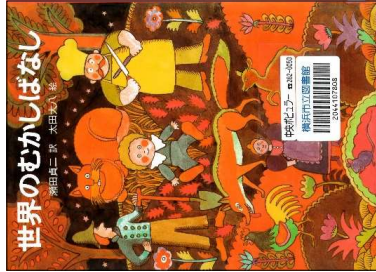
ランドセルは海を越えて、アフガニスタンで始まる新学期
内堀タケシ/写真・文
国土社 [3-0500789130] 37



日本の子どもたちが6年間使ったランドセルが、6,000キロはなれたアフガニスタンの届きました。文房具がまっただプレゼントに子どもたちは大喜び! 戦争やテロが続く国の子どもたちの背中、ランドセルの7年目が始まりました。

世界のむかしばなし

瀬田貞二/訳
太田大八/絵 のら書店
[3-0200057228] 38.8



むかし、ひとりのやどなしがある家にとめてもらいました。でも、その家のおばあさんはケチでたべものをくれません。そこでやどなしが、くぎでスプーンをつくってみる... (「くぎスプーン」より)。ふしぎでゆかいなおはなし14話が入っています。

パンフルートになった木

葉山ひろみ/文
こがしわかお/絵
少年写真新聞社
[3-0500801159] えほん 2/みどり



わたしは、パンフルートという笛です。とおいむかし、校庭の木でした。あるとき、兵隊や飛行機がきて、黒こげになりました。わたしの葉っぱはよみがえらず、切りたおされて笛をつくることになりました。広島で本当にあったお話です。

俳句ステップ!

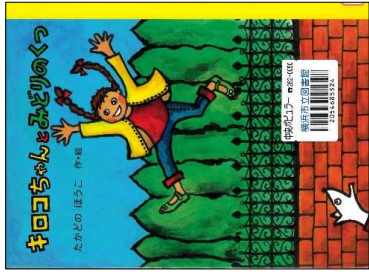


おおぎやなぎなか/作
イシヤマアズサ/絵
佼成出版社
[3-0500808973] 6

七美の秘密の趣味は俳句。ある日、クラスから市の俳句大会で大賞に選ばれた人が出たと先生が発表された。えらばれたのは、七美が作った俳句だった。なぜかクラスメイトの早知恵が作者になっていた。どういうこと?

キロコちゃんのみどりのくつ

たかどのほうご/作・絵
あかね書房
[3-0196066243] 14



古びたくつ屋さんで見つけたみどりのペンチコなくつ。目だまふたつに口とペロのあるそのくつをはくと、足が勝手に動きます! キロコちゃんは、くつに「ミドリン・ミドロン」と名前をつけました。とんでもない日々のはじまりです。

あいうえおさん



森絵都/文
荒井良二/絵 河出書房新社
[3-0500780925] 91

「アレクサ あつあつあじみして」「にんじやでにぎわう ニューヨーク」「よいかい よろこぶよるのもり」など。とほげた絵と、ぴったりあうおかしな語が、あいうえお順でつぎつぎ出てくる楽しい本です。

ひかる! 1 本気。負けな!

後藤藤二/作
スカイエマ/絵
そうえん社
[3-0208048829] 2



4年生になった朝。ひかると学校いちはん乗りの女のは、新しい担任だった。みんな先生が気に入ったらしいが、ひかるはどうもおもつかない。そんな中、全校ドッジボール大会が近づいた。つぎが2次。